

火災・救急・救助概要

令和4年版

(2022年)



城陽市消防本部

火災概要

令和3年中の出火件数は20件で、前年に比べ増減なしとなっている。

これを火災種別ごとにみると、建物火災が10件で1件の減少、林野火災が1件で1件の皆増、車両火災が2件で2件の減少、その他の火災が7件で2件の増加となっている。

火災による焼損棟数が14棟で、前年の15棟と比べ1棟の減少となっている。

これを焼損程度ごとにみると、全焼が3棟で増減なし、部分焼が4棟で2棟の増加、ぼやが7棟で3棟の減少となっており、焼損床面積が241平方メートルで307平方メートルの減少、焼損表面積が159平方メートルで125平方メートルの増加となっている。

一方、火災による人的被害の状況については、負傷者が5人発生しており前年と比べ4人の増加となっている。

り災世帯数については、全損が2世帯で1世帯の増加、小損が5世帯で1世帯の減少となっており、り災人員が9人で6人の減少となっている。

損害額合計は2,264万2千円で前年と比べ2,466万6千円の減少となっている。

これを損害種別ごとにみると、建物損害が2,169万円5千円で2,406万8千円の減少、車両損害が68万5千円で18万6千円の減少、その他の損害が26万2千円で41万2千円の減少となっている。

出火原因の状況については、放火、その他が各4件、こんろ、電気機器、不明が各2件、ストーブ、たばこ、たき火、灯火、衝突の火花、取灰が各1件となっている。

令和3年中の出火件数は前年と同数であるが、放火が原因の火災が占める割合が多いことから、放火による火災発生防止の徹底を図り、今後も更に防火広報やパトロールの強化及び警察との連携強化に努めるとともに、市民や各事業所と一体となって、放火されない環境づくりに取り組み、安心・安全な暮らしの実現を目指す。

火災状況

区 分		年 別	令和3年 (2021年)	令和2年 (2020年)	前年との 比 較
出火件数 (件)	合 計		20	20	
	建 物 火 災		10	11	△ 1
	林 野 火 災		1		1
	車 両 火 災		2	4	△ 2
	船 舶 火 災				
	航 空 機 火 災				
	そ の 他 の 火 災		7	5	2
焼 損 棟 数 (棟)	合 計		14	15	△ 1
	全 焼		3	3	
	半 焼				
	部 分 焼		4	2	2
	ぼ や		7	10	△ 3
焼 損 面 積 (㎡)	建 物 床 面 積		241	548	△ 307
	表 面 積		159	34	125
	林 野 (a)				
人 的 被 害 (人)	死 者				
	負 傷 者		5	1	4
り 災 世 帯 (世帯)	全 損		2	1	1
	半 損				
	小 損		5	6	△ 1
り 災 人 員 (人)		9	15	△ 6	
損 害 額 (千円)	合 計		22,642	47,308	△ 24,666
	建 物 損 害		21,695	45,763	△ 24,068
	林 野 損 害				
	車 両 損 害		685	871	△ 186
	船 舶 損 害				
	航 空 機 損 害				
	そ の 他 の 損 害		262	674	△ 412
	爆 発 損 害				
1 日 平 均 損 害 額 (千円)		62	129	△ 67	
市 民 1 人 あ た り の 損 害 額 (円)		304	636	△ 332	
火 災 1 件 あ た り の 損 害 額 (千円)		1,132	2,365	△ 1,233	
建 物 火 災 1 件 あ た り の 焼 損 床 面 積 (㎡)		24	50	△ 26	
出 火 率 (件/万人)		2.7	2.7		

△は減少を示す。

救急概要

令和3年中の救急出動件数は3,388件、搬送人員は3,226人で前年と比べ出動件数は10件の減少、搬送人員は22人の減少で、1日平均9.3件の出動となっている。

事故種別ごとでは、急病2,338件、一般負傷559件、交通事故225件で全体の92.1%を占め、以下、転院130件、労働災害38件、運動競技及び自損行為が各26件、加害11件、火災3件、水難1件、その他が31件となっている。

事故種別ごとに前年と比較すると、一般負傷56件、転院24件、運動競技12件、火災2件、水難、労働災害及び加害が各1件、その他が5件の増加に対し、急病93件、交通事故11件、自損行為が8件の減少となっている。

搬送人員3,226人の傷病程度については、死亡45人、重症177人、中等症1,302人、軽症1,702人であり、入院加療を必要としない軽症者が全体の52.8%を占めている。

事故種別ごとに軽症者の占める割合をみると、交通事故78.5%、一般負傷65.7%、急病49.5%となっている。

医療機関への収容先については、城陽市内50.0%、久御山町内22.9%、宇治市内18.8%、京田辺市内5.3%、京都市内2.3%、その他の京都府内0.2%、他府県0.5%となっている。

市民等に対する応急手当普及啓発活動は、普通救命講習I（3時間）を19回177人、その他の講習を23回872人に対して実施している。

救急出動状況は、前年と比べ出動件数で0.3%の減少、搬送人員で0.7%の減少となっている。搬送人員における高齢者の割合は69.5%を占め、前年と比べると0.1ポイントの減少となっているが、依然として高齢化社会を象徴する状況が続いている。

また、搬送人員に占める軽症者比率が高いことから、今後も救急車の適正利用について啓発活動を続けるとともに、救急隊現場到着までの空白の時間を埋めるため、応急手当普及啓発活動をさらに推進し、救命率の向上に努める。

救急状況

年 別 区 分		令和3年(2021年)			令和2年(2020年)			前年との比較			
		出動件数	うち 管外	搬送人員	出動件数	うち 管外	搬送人員	出動件数	うち 管外	搬送人員	
事 故 種 別	火 災	3		3	1		1	2		2	
	自 然 災 害										
	水 難	1	1					1	1		
	交 通 事 故	225	2	214	236		235	△ 11	2	△ 21	
	労 働 災 害	38		36	37		37	1		△ 1	
	運 動 競 技	26		26	14		14	12		12	
	一 般 負 傷	559	1	540	503	1	488	56		52	
	加 害	11		7	10		8	1		△ 1	
	自 損 行 為	26		23	34		26	△ 8		△ 3	
	急 病	2,338	3	2,247	2,431	4	2,332	△ 93	△ 1	△ 85	
	そ の 他	転 院	130		130	106		106	24		24
		医 師 搬 送									
		資 機 材 搬 送									
		そ の 他	31	1		26		1	5	1	△ 1
合 計		3,388	8	3,226	3,398	5	3,248	△ 10	3	△ 22	
不 搬 送 件 数		168			170			△ 2			
出 動 延 べ 人 員		10,667			10,504			163			
1 日 平 均 出 動 件 数		9.3			9.3						
1 日 平 均 搬 送 人 員		8.8			8.9			△ 0.1			
1 日 最 多 出 動 件 数		18			21			△ 3			

△は減少を示す。

傷病程度別救急搬送人員状況

傷病程度別 \ 事故種別	急病(人)	交通事故(人)	一般負傷(人)	その他の(人)	計(人)	比率(%)
死亡	38	1	1	5	45	1.4
重症	131	9	15	22	177	5.5
中等症	965	36	169	132	1,302	40.4
軽症	1,113	168	355	66	1,702	52.8
その他						
計	2,247	214	540	225	3,226	100.0
軽症者比率(%)	49.5	78.5	65.7	29.3	52.8	

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

収容先別救急搬送人員状況

収容先別 \ 事故種別	急病(人)	交通事故(人)	一般負傷(人)	その他の(人)	計(人)	比率(%)
城陽市	1,096	129	318	69	1,612	50.0
久御山町	552	45	104	37	738	22.9
宇治市	431	21	87	67	606	18.8
京田辺市	113	16	30	13	172	5.3
京都市	46	1	1	27	75	2.3
その他の京都府内	4	1		3	8	0.2
他府県	5	1		9	15	0.5
計	2,247	214	540	225	3,226	100.0

年齢別救急搬送人員状況

事故種別 年齢別	急病 (人)	交通事故 (人)	一般負傷 (人)	その他 (人)	計 (人)	比率 (%)
新生児						
乳幼児	81	7	29	4	121	3.8
少年	28	13	13	22	76	2.4
成人	532	106	55	94	787	24.4
高齢者	1,606	88	443	105	2,242	69.5
計	2,247	214	540	225	3,226	100.0

※比率については、項目毎に四捨五入しているため、合計の一致しない場合がある。

新生児：生後28日未満の者

乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者

少年：満7歳以上満18歳未満の者

成人：満18歳以上満65歳未満の者

高齢者：満65歳以上の者

救助概要

令和3年中の救助出動件数は48件で前年と比べ15件の増加、活動件数は32件で前年と比べ7件の増加、救助人員は23人で前年と比べ9人の増加となっている。

これを事故種別ごとにみると、交通事故の出動件数は8件で活動件数が6件、水難事故の出動件数は1件で活動件数は1件、機械による事故の出動件数は1件で活動件数は1件、建物等による事故の出動件数は3件で活動件数は3件、その他の事故の出動件数が35件で活動件数が21件となっている。

一方、救助人員と傷病程度を事故種別ごとにみると、交通事故では6人を救助し、中等症2人、軽症4人、水難事故では1人を救助し、死亡1人、機械による事故では1人を救助し、死亡1人、建物等による事故では2人を救助し、軽症1人、不搬送1人、その他の事故では13人を救助しており、重症2人、中等症4人、軽症2人、不搬送5人となっている。

令和3年中の救助出動件数は、前年と比べ15件の増加となっており、今後も新名神高速道路の全線開通等により救助事象は複雑多様化することが想定されるため、訓練を重ね隊員の知識・技術・体力の向上を図るとともに、救助資器材の整備を行い、安全・確実・迅速な救助活動が展開できるように努める。

救助状況

年 別 事 故 種 別	令和3年 (2021年)			令和2年 (2020年)			前年との比較		
	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)	出動件数 (件)	活動件数 (件)	救助人員 (人)
火 災									
交 通 事 故	8	6	6	7	4	6	1	2	
水 難 事 故	1	1	1				1	1	1
風水害等自然災害									
機械による事故	1	1	1	1	1	1			
建物等による事故	3	3	2				3	3	2
ガス及び酸欠事故									
破 裂 事 故									
その他の事故	35	21	13	25	20	7	10	1	6
合 計	48	32	23	33	25	14	15	7	9

△は減少を示す。

事故別傷病程度状況

傷 病 程 度 事 故 種 別	活動件数 (件)	救助人員 (人)	傷病程度 (人)						
			死 亡	重 症	中 等 症	軽 症	そ の 他	不 搬 送	
火 災									
交 通 事 故	6	6			2	4			
水 難 事 故	1	1	1						
風水害等自然災害									
機械による事故	1	1	1						
建物等による事故	3	2				1			1
ガス及び酸欠事故									
破 裂 事 故									
その他の事故	21	13		2	4	2			5
合 計	32	23	2	2	6	7			6